

## 第8回 ヒンドゥー教 [H]とイスラム教[I]

南アジア諸国では、日本では馴染みの薄いヒンドゥー教とイスラム教が広く信仰されている。インドではHが約8割、Iが1割、バングラデシュではHが約1割、Iが8割の構成である。1割と言っても人口の絶対数が大きいので、その存在は大きな意味を持っており、両国の社会を理解するには、両宗教の基本的教義を知っておかねばならない。その内容は非常に対照的であるので、両者を並列して考察すると理解しやすい。

神観念	[H] 多神教、祭祀を重視し思弁的なバラモン教と非アリア系諸民族の宗教の要素をとり入れる。 [I] 一神教、アッラーの他に神はなし
礼拝	[H] 偶像崇拜、mandir (神殿) [I] 偶像拒否、mosque、 masjid (礼拝所)
人生観	[H] karman (業)と samsara (輪廻)、因果応報 [I] 現世における生き方こそが、厳しい最後の審判に備えることができる唯一の機会である。
教典	[H] Rg Veda→ Brahmana、Upanisad、Purana、Bhagavad Gita [I] コーラン：天啓の書、アッラーが信徒に対して直接話しかける形。
聖職者	[H] バラモン [I] 聖職者の存在を許さない。法学、神学の学識者が導師となる。
宗派	[H] 組織されていない。ヴィシュヌ、シヴァ派の平和的共存関係。 [I] スンニ派：多数派、シーア派：アリーの一派
入信、改宗	[H] ヒンドゥー教の子に生まれることが、ヒンドゥー教徒になる条件。 [I] 六信（神、天使、教典、予言者、来世、定命）、五行（信仰告白、礼拝、断食、喜捨、巡礼）を真剣に受け入れ、実践すれば、人種、民族、国籍を問わず、だれでもイスラム教徒になれる。
階層秩序と 連帯意識	[H] ヴァルナ階層制 [I] 階層秩序と身分意識を否定する。同胞認識、平等感、連帯意識。 共通の挨拶の言葉：アライクムアッサラーム al-salam alaikum、と挨拶されたらワライクムアッサラーム wa alaikum al-salam と返事する。
脱俗と 社会規範	[H] 現実の生活面では、個人よりも集団の利益の方が優先される傾向が強い。 その一方で、世俗から離れて自分1人修行の道に入り、解脱の道を探ることを理想とする。 四住期(catur asrama)：①学生期、②家住期、③林住期、④遊行期 [I] 個人や家族の枠を超えて、同胞イスラム教徒として共同体のために奉仕するという責任感が強く前面にでてくる。聖戦（ジハード）。

●ヒンドゥー教の古代教典である「リグ・ヴェーダ」およびイスラム教の教典「コーラン」は、前者はインドラ神を讃える詩であり、後者はアッラーに帰依する戒律であり、一見堅い印象をうけるが、内容を通読すると、後半部に非常に庶民的なくだけた文言が多数収められている。ここではその部分を2、3紹介しておきたい。イスラム教徒が何故ブタ肉を食べないかがわかる。

○辻直四郎訳『リグ・ヴェーダ賛歌』岩波書店、1985より

・ 蛙の歌

①(沈黙の) 戒を守る祈祷者(詩人兼祭官)のごとく、一年のあいだ蟄居したるのち、蛙らは今声を挙げたり、バルジャニア(雨神)に誘発せられたる声を。

・ 食物の歌

①われ今力強く食物を讃う、維持者・威力なる食物を。その力によりトリタ(神名)はヴィトラ(悪魔)を、関節ごとに切断したり。

②甘美の食物よ、甘き食物よ、われらは常に汝を選べり。われらの支援者たれ。

③汝のこの名高き滋液は、食物よ、もろもろの空間に拡がれり、風のごとく天界に達して。

・ 夫の情人を克服するための歌

①われこの草を掘る、最も力強き食物を、それにより恋敵を克服し、それにより夫を占有する草を。

②われ最上ならんことを、最上なる者よ、最上の者よりさらに上位ならんことを。しかしわが恋敵は、最下の者よりさらに下位なれ。

・ 催眠の歌(夜中に恋人の家に忍び込む者が、番犬ならびに家内に住む一同を眠らせて、支障なく目的を達するための呪法)

①褐色の斑ある白犬よ、汝が歯をむき出すときは、噛まんとする汝の顎の中に、あたかも槍の向かい輝くがごとし。安らかに眠れ。

②盗賊に吠えよ、犬よ、あるいは強盗に吠えよ、走り返るものよ。汝はインドラの讃歌者に吠ゆ。何ゆえわれらに危害を加えんとはする。安らかに眠れ。

③母親は眠れ、父親は眠れ。犬は眠れ、部族長(家長)は眠れ。すべての親族は眠れ、ここなる周囲の者たちは眠れ。

○井筒利彦訳『コーラン 上』岩波書店、1985より

・ 慈悲ふかく慈愛あまねきアッラーの御名において……

①これ、汝ら、信徒の者よ、一度取りきめた契約はすべて必ず果たすよう。

家畜の獣類は食べてもよろしい。但しこれから読み上げるものは除く。また聖地巡礼の禁忌状態にあつて(メッカ巡礼に赴く信者は一種のタブー状態にある)狩猟をしてならぬことは言うまでもない。アッラーは御心のままに掟を作り給う。

②汝らが食べてはならぬものは、死獣の肉、血、豚肉、それからアッラーならぬ邪神に捧げられたもの、絞め殺された動物、墜落死した動物、角で突き殺された動物、また他の猛獣の喰らったもの—この種のものでも汝らが自ら手を下して最後の止めをさしたものはよろしい—それに偶像神の石壇で屠られたもの。

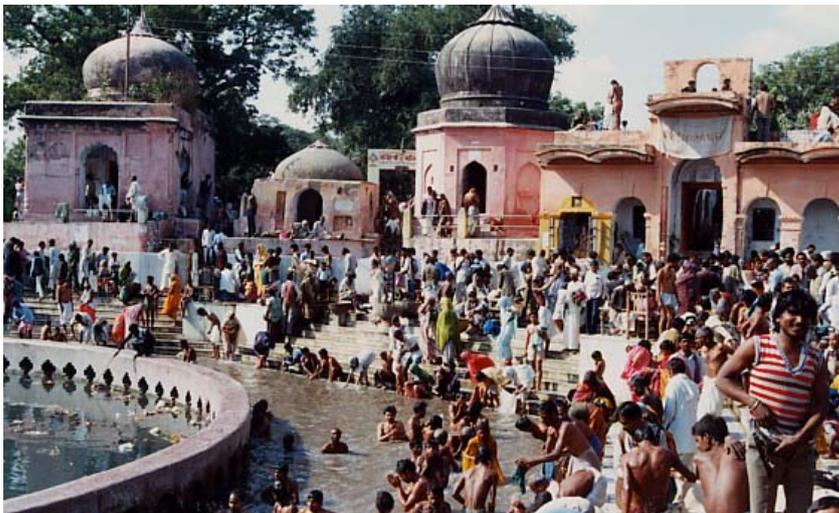


写真 29 ヴィシ  
ユヌ神ゆかりの  
ヒンドゥー教聖  
地

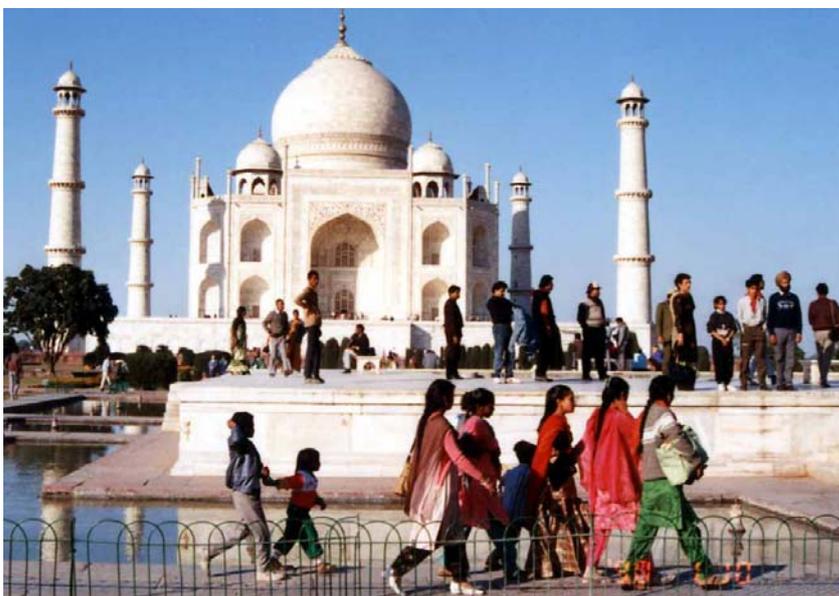


写真 30 タージ  
マハール  
イスラム藩王シ  
ヤージャハン妃  
の墓